

夢ある鶴ヶ谷へ

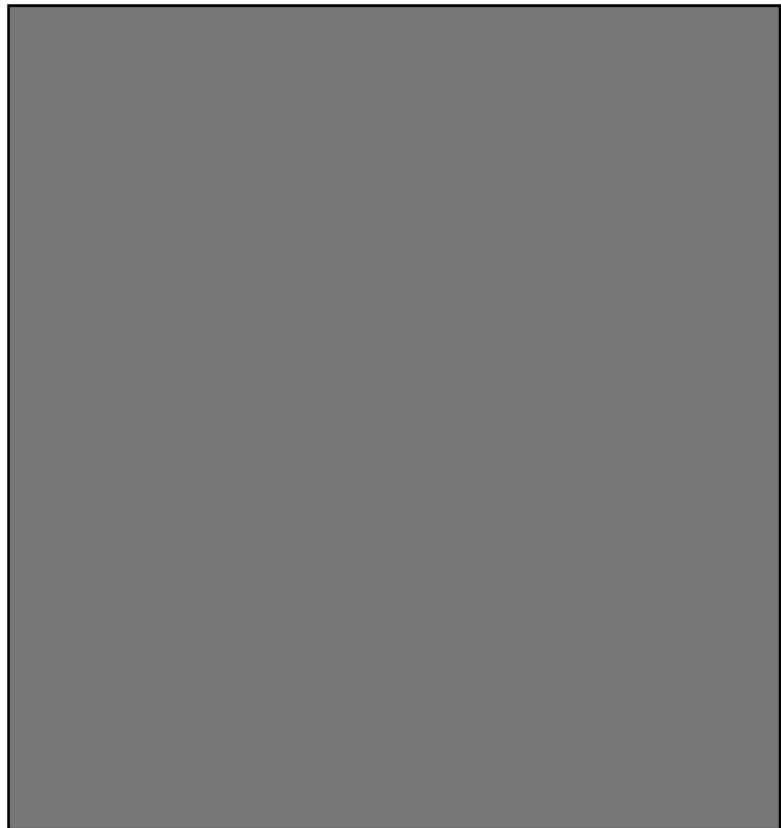
アブストラクト

本研究は鶴ヶ谷地区の地域活性化を目標としてabAinの空きスペースを活用したイベントの開催へと活動したものである。当初は空き家活用による地域活性化を目標としていたが様々な要因から難しいと考え地域の商店街に目を向けた。イベント開催に向けた活動として地域の団体であるつるがや元気会との協力で何度も話し合いを重ねたりを行ったり、地域住民へのアンケートを行ったり、ワークショップを行って地域の中学生に意見を聞いたり、修学旅行で他の商店街の活動を伺ったり、外部発表で新たな視点を手に入れたりと様々な活動を行った。そしてそれらから得た情報をもとに適したイベントのコンセプトを決め、じっさいに具体的なイベントを考え、abAinへの提案を行った。長期的に見て地域活性化を進めるために次の世代へと引き継いでいながらイベントを始めとする活動を計画し、様々な団体と協力をおこなうことで最終目標である商店街の空きスペースを利用した地域の活性化の達成を目指していきたい。

キーワード: abAin 鶴ヶ谷 地域活性化 イベント

①探究活動の動機について

私達は当初鶴ヶ谷地区における空き家の再利用をすることで地域の活性化を行おうと考えていた。そこでネットを始めとして様々な情報を集め空き家の利用方法等を模索していた。しかし空き家の活動を進めていく中で解決に際して費用のかかるものが多いこと、解決へのビジョンを描くことがなかなかできなかったこと、そして鶴ヶ谷地区は小学生を持つ家庭が上昇傾向にあり地域団体の方々は鶴ヶ谷地区における空き家問題は深刻なものではないと結論付けていたことなどこのまま探究活動を続けることは困難になってしまった。そんななかで地域団体の方々が作成した地域住民の意見の中に鶴ヶ谷地区は依然として高齢者の割合がとても高いという現状は改善しておらずまた、地域のショッピングセンターであるabAinが衰退傾向にあり再び盛り上げてほしいというような意見が複数挙げられていることに気付いた。そこで実際にabAinに赴くと多くの問題点があげられた。そこで衰退傾向にあるabAinの活気を取り戻しそこを起点として地域の再活性化につなげようとなったのが動機である。



II. 研究方法



5月1日 abAin事務長と面会
6月1日 つるがや元気会と面会
7月1日 abAin事務長と面会
7月19日 つるがや元気会と面会
8月1日 つるがや元気会と面会
8月26,7日 商店街活性化に関するアンケート
10月9日 つるがや元気会との面会
10月22日 ワークショップの開催
11月28日 つるがや元気会と面会
12月14日 大阪の商店街訪問
12月21日 つるがや元気会と面会
2月3日 全国高校生マイプロジェクトア
ワードに参加
4月19日 abAin事務長と面会

Ⅲ.研究内容

私達は最初に空き家を活用することによって地域の活性化を行うことを目標として探究活動を行っていた。しかし空き家活動の解決には金銭が伴うこと、また、探究活動を行っている一つ上の探究班にお話を伺うと鶴ヶ谷地区では空き家問題が深刻でないと言われていないことがわかった。ここで空き家活動が行き詰まったが先輩が関わっている団体につるがや元気会というものがあることがわかった。そして、その団体が作成した資料を見ると地域の住民の意見が書かれた欄に地域のショッピングセンターであるabAinを盛り上げてほしいという意見がいくつか存在した。そこで私達はそこに目を付け地域活性化を最終目標とする軸は残しつつもabAinについての探究活動を行うことになった。abAinに実際に行ってみると平日ということもあったが人の出入りは少なく高齢者の割合がとても高いという印象を受けた。また、中に入るとシャッターがしまっているところも多く見られ(写真)雰囲気も暗いように感じた。このような現状から私達は最終目標としてイベントを開くことを目標とした。探究活動を進めるために私達はまずabAinの事務所へ訪問しイベント開催への協力とabAinについてお話を伺った。すると周辺との競合、組合であることなどが要因となりここ最近衰退が進んでいるということがわかった。続いてつるがや元気会との交流の場を鶴ヶ谷市民センターで頂いた。そこでは私達がabAinできいたお話を伝えるのと同時に鶴ヶ谷地区についての詳しいことについて教えていただいた。その次には南部茂樹さんも踏まえて意見をいただくために三高にて二度目の交流を行った。そこでは更に詳しい鶴ヶ谷地区のことについてを教えていただいた。鶴ヶ谷地区はワンセンターシステムという方式に基づいて団地が形成されている。ワンセンターシステムとは地区の中心にショッピングセンターを配置しそれを中心に地区の形成を行うというものである。鶴ヶ谷地区で言うそのショッピングセンターがabAinでありその衰退は構造上地域の衰退を招きかねないという。そこで地域の活性化を行うためにabAinの活性化を行うことの重要性を確認することができた。また、最終的にabAinで活性化を行うために様々な手順の計画を行うことにした。それは大きく分けて

①地域住民アンケート

②ワークショップの開催(つるがや元気会と共同)

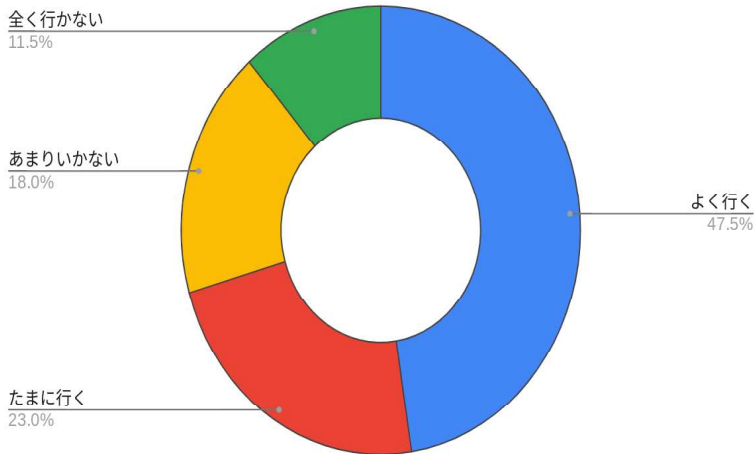
③修学旅行での他の商店街の調査

これを材料としてイベント開催に向けて準備を進めることになった。

①地域住民アンケート

8月26日、27日に許可をいただき生協の前でアンケートを行った。

①abAinにはよく行きますか(61人からの回答)

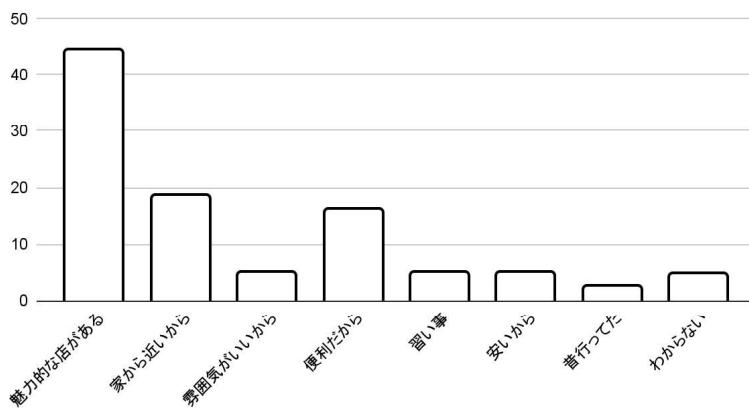


・生協でのアンケートではまず、「abAinによく行きますか」という質問をした。2日間で計61名の方々にご協力頂いた結果、約半数の方が「よく行く」、23%の方が「たまに行く」、全体の約3割の方が「あまり行かない」もしくは「まったく行かない」と回答した。

・私たちが実際にabAinを訪れたときの体感よりも多くの方がabAinを訪れているという結果が得られた。

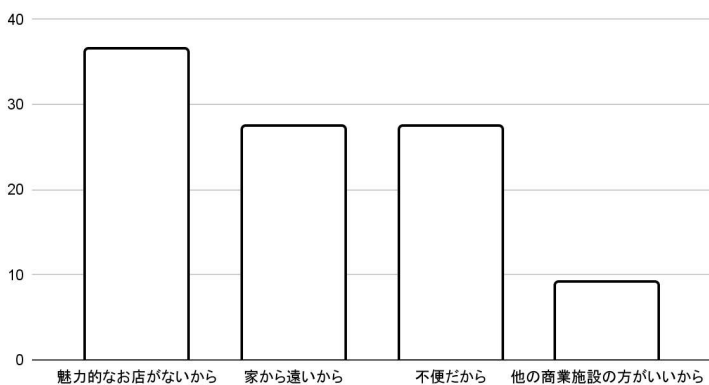
・このような結果になったのは実際に多くの人々がabAinを訪れていること以外に、調査を実施した場所がabAinの目と鼻の先にあるみやぎ生協鶴ヶ谷店であること、質問が抽象的であることも考えられる。

②-1 abAinを利用する理由(母集団43、複数回答可)



よく行くまたはたまに行くに答えた人の約半数の人が、魅力的なお店があるからという理由だった。ただ具体的に店の名前を聞いてみるとほとんどの人が生鮮市場と答え、偏っているのも事実である。このことを踏まえても、ほとんどの人が生鮮市場以外に魅力を感じていないということが分かった。また家が近いから、便利だからという意見も2割程度見られた。逆に言えば利用している2割程度の人しか便利と感じていない事がわかる。

②-2 abAinを利用しない理由(母集団18、複数回答可)



abAinに行かない原因として一番多く挙げられたのは魅力的なお店がないからであった。次に多かったのは家から遠いから、不便だからであった。ほかにも他の商業施設のほうが良いからという意見もあった。アンケートの母数に対するあまり行かない、全く行かないと答えた方が少なかったことから正確性には欠けるが、これらの意見から利便性に関する不満と、施設に対する不満がそれぞれ約同数存在していることがわかった。

②ワークショップの開催

夢ある鶴ヶ谷を目指して ～中央ショッピングセンター見直しとまちづくり～

①abAinの現状

- ・abAinの所有者の考えを聞きたい
- ・雰囲気暗くて行く気にならない



・周辺環境との繋がりが薄い
などという否定的な意見が多く上がった。

②abAin活性化について

・住民の憩いの場となるよう椅子の設置
・オープンカフェの開設
・イートイン・自習室の設置
などという意見が多く上がった

③イベントについて

・仙台三高、鶴谷中の文化部発表、小学生によるよさこい発表
・フリーマーケット、屋台
・くつ飛ばし大会、宝探し
※鶴谷中学校を借りて大規模に行いたい
という大胆な意見も見られた



<ワークショップ全体を通して>

abAinに関してのワークショップを行ったが今のままでは行こうと思えないというような意見が多くあった。そこで私達が当初から考えていたように関心を持ち人が集まるきっかけとなるようなイベントが必要という声が地元の方々の声からも聞こえた。

③修学旅行で調査

私たちは市内に300もの商店街を有する大阪市を訪問し、住宅街に立地する文の里商店街と生野本通商店街の2箇所を訪れた。いずれの商店街も、中心繁華街である心斎橋や戎橋と比較すると人通りは少ないが、閑散としているわけではなく、住宅街の商店街としては人通りが多いように見受けられた。この2つの商店街の共通点をまとめると、

1.街との一体感がある

鶴ヶ谷中央商店街は周囲の街から独立している区画に立地していて敷地内に段差が多いが、研修先の2つの商店街にはそのような障壁がなく、普通の道路と同様に商店街のなかを歩いて、自転車を運転したりしている人が多く見受けられた。

2.さらなる活性化を求めている

文の里商店街も生野本通商店街のいずれも午前中からある程度の人通りがあったが商店街に店を構える店主に話を伺うともっとたくさんのお客さんに商店街を訪れてほしいという返答が得られた。

3.イベントで人が集まってくる

文の里商店街でも生野本通商店街でも定期的にイベントが実施されており、商店街に店を構える店主に話によると、イベントを実施した際にはいつもよりも遥かに多くの人々が商店街を訪れ、たいへん賑わうそうである。



地域の高校の作品展示などもあり、多少の古さは感じるながらも周りに溶け込んでいる印象が強かった。

②のワークショップのまとめ

	現状の意見	解決策
1	店の雰囲気が悪い	音楽を流す、照明を明るくする
2	商品の陳列の仕方が良くない (何がお買い得かわからない)	入り口付近にチラシでおすすめ商品を掲示し商品の魅力を引き立てる
3	自習室、イートイン、椅子(室内)がほしい (中学生)	空きテナントを活用してそれらのスペースを作る、外の椅子を室内に置く
4	高齢者や若者が集まれる場所がない	店内に遊戯場を設置し、おもちゃやボードゲームを置く。そのスペースでイベントを開催
5	abAinの所有者の考えを聞きたい (自分たちの意見を聞いてほしい)	質問箱とその回答を書いた掲示板の設置を行う
6	交通の便が良くない (自動車が使いにくい)	駐車料金の見直しとイベント時の駐車場の無料開放

イベント案

1.近隣の中学、高校の文化部発表

概要: 仙台三高、鶴ヶ谷中学校などの文化部による演奏、合唱、美術作品の提示をする。また、コンテストを実施して入賞者にはabAinで使えるクーポン券の配布をする。

2-1.フリーマーケット

概要: 参加者には自分のテーブルやブースを設け、家庭や趣味で使わなくなった物品を販売する。リサイクルの促進、地域住民の交流を深める場になる。

2-2.屋台

概要:

①会場は外で、地元の飲食店を呼び込んで屋台を開く。また、同時並行で文化部の展示をする

②中学、高校生が主体となって手作りの商品を販売する(鶴ヶ谷中学校で人は集まりそう)

2-3.くつ飛ばし大会、宝さがし

概要:

・数メートルの助走のあと、足を振ってくつを飛ばし、飛距離を競い合う。年代別 で分けて好成績の人には景品を渡す

・参加者にはヒントが書かれたマップを渡し、それを頼りにabAin内で暗号を見つけていってもらおう。みごと暗号を解読できた人には景品を渡す

②、③を中心に12月21日に再びつるがや元気会と交流を行った。

そこでは同時にabAinへ提案を行うイベント案についても言及した

続いて2月には全国高校生マイプロジェクトアワードに参加した。そこでは私達とおなじように探究活動に取り組む高校生との交流の機会を得られた。すでにイベントの開催を行っているグループもあり、その人達からやアドバイザーの方から意見をいただきイベント開催に関して考えをブラッシュアップする貴重な機会となった。

そして4月再びabAinの事務長と面会しイベント案の提案を行った。

IV. 考察

活性化に繋げられるようなイベントについては、近年増えつつある小中学生とその親をメインターゲットとしたうえで誰でも気軽に参加できるようなイベントが効果的であると考えた。そこで上で述べたようなアンケートやワークショップでの意見を踏まえつつおもに2つのイベント案を企画した

モデルケース①

コンセプト 気軽に参加できるイベントで幅広い世代の人を集める



場所 催事場(可能であれば空きテナントも)
主催 仙台三高探究20班、つるがや元気会、abAin
イベント内容 靴飛ばし大会、フォトコンテスト
大会規模 最大500人ほど

【靴飛ばし大会】

提案理由 身近なものである靴を利用して、誰でも参加することができるから。

大会形式

- ・参加費 100円
- ・ブースごとに点数を決め、二投の合計得点で賞品を決める
- 支出項目 賞品代、ペン、テープ、模造紙、床に敷くシート代
- 備考 ・必要面積の確認が必要
- ・割引チケット作成が可能かの確認が必要

宣伝方法

- ①ポスターを作成し学校に掲示し、当日参加者を募る
- ②インスタ等snsを活用
- ③回覧板orチラシを作成し地域世帯に配る。



【フォトコンテスト】

大会形式

- ・参加費 無料
- ・おすすめの地域スポットなどを写真に収めてもらい催事場にエントリーボックスを設置(常設)。
- ・期間を二ヶ月に設定し二週間で順位付けを三高生で行い、次のエントリー機関の二ヶ月間で展示をおこなう
- ・靴飛ばし大会時の宣伝にフォトコンテストの内容を記載、靴飛ばし大会と同時期にフォトコンテストを開始。

モデルケース②

コンセプト 親子で協力して絆を深める

日時 3月30日(土)午後 1時～3時まで
場所 空きテナント
主催 仙台三高探究20班、つるがや元気会、abAin
イベント内容 共同製作
規模 人数問わず来てくれた人

【貼り絵】

提案理由 完成するまで何が出来上がるか分からない楽しみがあり、子どもだけでなく親、高齢の方も一緒に取り組めて地域の輪をより広げることができるから。

大会形式

- ・参加費 無料
 - ・来てもらった人に入場券のような形で紙を2枚程度配布し、あらかじめどこに貼るか分かるようにした模造紙に貼ってもらい、一つの作品を入場者全員で完成させる。そして出来上がった作品をabAinに展示して、それを見るために何回も訪れてもらう。
- 支出項目 模造紙、折り紙、のり、下書き用のペン

考察②活動全体について

abAin の衰退と地域の衰退はここ数年で起きた話ではない。したがって活性化も一年程度で簡単にできるものではないと考える。そこで下の台に繋いで長きにわたり着実に活性化をすすめていくこと、地域住民の意見を度々取り入れは幅広い層の人たちのニーズに応えられるような活動がこれからも必要であると考えている。

まとめ

私達は地域の活性化というのをテーマに探究活動を行った。最初は空き家問題について考えていたが、そこから地元の商店街について注目した。沢山の方の協力のもと活動を進めることができた。これまでの内容を更に発展させ、先の世代へとこの活動をすすめていきたい。最後に本研究に関わっていただいた全ての方々に感謝の意を表す。

参考文献

- つるがや元気会 2017年9月4日発行 NEXT50NEWS
- つるがや元気会 2018年3月3日発行 NEXT50NEWS
- 南部茂樹 2017年5月11日発行 「都市と文化」